

## 国際学会「ICserv2017」でのポスターセッション

総合政策学部4年 若杉亮介

### 1. 活動日程・会場

ICserv2017は、2017年7月12日から同14日まで開催されていた。本学会の内、ポスターセッションにて研究発表を行った。学会の場所はオーストリアのウィーン大学のキャンパス内で行われた。

### 2. 活動の内容

ICservは、サービスデザインの学会である。サービスデザインは、様々な定義があるが、異なる背景を持った人同士での価値共創をいかに促進するかを考える学問である。今回は自分の研究活動の成果を発表したいと考え、ポスターセッションに投稿をしたところ、これが受理され、現地での発表を行うこととなった。

研究発表を行った、「Rapid prototyping workflow for personalized care items in the field of nursing」では、3Dプリンターによる、ケア用品の新しい設計手法を行う上での発見について発表をし、将来の課題についての考察を発表する。

3Dプリンタをはじめとしたデジタル工作機械は近年、急激な進歩により、コストと製造時間が大幅に減少した。これによって、今日、個人レベルでアイデアをすぐ形にすることが可能になった。そして、作ったものを他者に見せてコメントやフィードバックを収集することがより早く行えるようになった。

看護のケア用品は大量生産された製品のため、ほとんどは個人に適合しないため、使いづらいという問題点がある。3Dプリンタは少量多品種生産に向いているため、個別性の高いケア用品を製作できるのではないかと考えた。この研究では、患者だけではなく、その周りを取り巻く、患者家族、看護師などの看護分野と、デザイナーやエンジニアなどものづくりの観点の両側の様々なステークホルダーと協力して、ケア用品の設計を行っている。

### 3. 研究の成果

セッションでは、3時間の発表時間が設けられていた。同席した参加者との討論、コミュニケーションを行うことができた。従来のケア用品と、今回作成したケア用品を持参し、参加者に実際に触ってもらったため、具体的なアイデアなどを得ることができた。

また、開催されていたトークセッションについて参加し、サービス学における自身の研究の文脈解釈や、サービス学自体の理解も深まった。それだけではなく、今回は普段親しいものづくりに重きを置いたテーマではなく、サービス学という普段と違うテーマの学会に参加をしたため、それぞれの学問における言葉の使われ方や、同じ言葉での文脈の違いについて学ぶことができたのは大きな収穫であったと言える。

### 4. 今後の課題

今回、初の学会発表であったが、無事に発表を終えることができた。その一方、今回は日本人の参加者が多かったため、ほとんどの議論を日本語で行うことができたが、それらの議論を英語ですることは厳しかったと考えられ、英語の修練が必要であることを感じた。

また、ただ単に自分の研究を発表するのではなく、自らの研究を分解し、その学会の文脈に沿って、組み直して研究発表をすることで、その学会における建設的なディスカッションに繋ぐことができることを気づいた。次回の学会発表に活かしたいと思う。

### 5. 謝辞

研究発表の際し、湘南藤沢学会より渡航費、宿泊費のご支援をいただいた。ここに深く感謝の意を示したい。